



校長室より 同窓会とともに歩む「チーム波佐見」



8月16日(土)に波佐見町内で、波佐見高校の同窓会総会「鴻陵会」がありました。総会では、多くの同窓生の方々と話をすることができました。「波高で学んだことが今役立っている」「部活動で出会った仲間との友情を大切にしている」「波高生であったことに喜びと誇りをもっている」「在校当初より校歌をこよなく愛し、機会あるごとに校歌を熱唱していた」「甲子園出場を期待している」など、仲間と過ごした高校生活を懐かしみながらも、在校生への期待を語る方々の、本校への熱い思いを感じました。波高に寄せる思いは一つであるとも感じました。

現在、本校で学ぶ皆さんの周りには素晴らしい仲間がたくさんいます。例えば、「勉強と部活動を上手に両立させている人」「いつも明るく元気に挨拶をする人」「服装や態度がいつもきちんとしている人」「ひたむきに勉強に打ち込む人」など、見習うべき人がたくさんいます。そんな仲間の良いところ、自分より優れていると思うところを、ぜひまねしてください。良いところをまねして改善されたあなたを、その周りの人が見て、まねる。この繰り返しこそが皆さん一人一人をレベルアップさせ、ひいては「チーム波佐見」の総合力を向上させていくこととなります。

2学期は、暑さも和らぎ、落ち着いて勉強するには最適の時期となります。3年生はいよいよ就職試験、入学試験が始まります。1、2年生は、勉強と部活動が本格的になってきます。また、来週は体育祭、10月には2年に一度の大文化祭と、学校として、学年として、クラスとして、結束力を発揮する学校行事も予定されております。

成長のきっかけがたくさんある2学期です。切り替えを上手に行い、学校生活のリズムをしっかり確立させてください。何事もだらだらとやるのが一番よくありません。遊びと勉強或いは部活動等、はじめをしっかりとつけてください。同窓会の皆様の期待に応える波高であり続けるためにも、充実した2学期にしていきたいと思います。
※平成26年3月31日現在の卒業生 6,509名
(分校971名、波高5,538名) (野田 定延)



全国高等学校PTA連合会 福井大会

第64回全国高等学校PTA連合会福井大会が、8月22日・23日に「教育と考福～未来に引き継ぐ知と恵み～」をテーマに、全国から1万人が集い、サンドーム福井(メイン会場)において開催されました。

下村博文文部科学大臣の祝辞の後、脳科学者である茂木健一郎氏が、「今求められる考福脳～脳科学者からの提言」をテーマに基調講演を行いました。その中で茂木氏は、「人間の脳が伸びるのは、自分ができないと思っていたことができるようになったときである。自分が何に向いているのか、能力があるのかは挑戦してみないと分からない。苦手なことに挑戦することが大切である」と話しました。校長先生と母の会の理事4名で、「親もいろいろなことにチャレンジして、できないことができたらいいですね」などと語り合いました。遠路の移動で大変でしたが、楽しく充実した研修でした。このような機会をご提供いただき、本当にありがとうございました。
(母の会会長 山川 千春)



全国高等学校総合文化祭

「レベルの高い作品に触れて」

7月27日～29日、全国高等学校総合文化祭いばらき総文2014「美術・工芸部門」に3年3組の高橋一樹君と一緒に参加しました。各都道府県から代表として推薦された、絵画・版画・彫刻・デザイン・工芸・映像の約400点の作品が茨城県立近代美術館で一同に展示されました。本校の美術部、陶芸部はこの全国総文祭に11年連続で長崎県代表として選出されており、現在、県の最多連続選出作品の記録を更新中です。

初日に交流文化館で行われた開会行事では、動画を使った茨木県の紹介がありました。機材の不具合で音声が流れなかったことで、会場全体が不安な空気になりましたが、そのあと行われた東京藝術大学の日比野克彦教授による講演会で雰囲気が変わり、来場した皆が話に非常に興味をもって聞き入りました。テーマは「人はなぜ絵を描くのか?」でした。

作品制作における根源的なテーマであり、参加した高校生や引率の先生方に、驚きと感動を与えてくれました。引き続き行われた高校生へのアドバイスも込めた作品講評会では、高校生から沢山の質問が寄せられました。

2日目は、茨城県立近代美術館と交流文化会館で生徒交流会が行われました。参加生徒たちは5～6人の班に分かれ、自分の作品について語り合うイベントや、提灯作りなどで他の地域からの参加者と有意義な時間を過ごすことができました。

参加生徒に、全国の高校生の作品に対する真摯な姿勢を見せることができ、充実した3日間を過ごすことができました。全国から集まったレベルの高い作品に、高校生の熱気とパワーをもらった大会でした。
(美術部顧問 岩永聡志)



日本画集中講義

「日本画の基本を学ぶ」

8月6日から8日までの3日間、美術・工芸科1年生20名を対象に、日本画の集中講義が行われました。芸術関係の夏季集中講義を本校で初めて開催しましたが、高校での日本画の講義は、全国的にも非常に珍しい取り組みです。

講師の安永義朗先生は佐世保市在住のイラストレーター、昨年まで中学校で美術教諭として活躍されていました。講義内容は、初心者である生徒にとっても大変分かりやすく、日本画の素材に触れたことのない生徒たちは、顔料から絵の具をつくる日本画の制作過程に驚いていました。「もう一度日本画を描きたい」という感想が多くの生徒から聞けました。生徒はもとより、美術・工芸科の教員も、大きな刺激をいただきました。

4月に入学して以来、陶芸・デザイン・洋画、そして今回の日本画と、美術・工芸科の生徒は様々な表現技法を学ぶことができました。今後の創作活動のヒントとモチーフを見つけることができたようです。

来年度から、本格的な日本画の授業が本校で始まります。様々な学びの機会を通して、生徒たちに物づくりの難しさや楽しさが伝わることを願っています。
(美術・工芸科 岩永 聡志)



9月の行事予定

- 9月 2日(火)～4(木) 特別時間割
- 9月 5日(金) 総予行 6日(土) 会場設営
- 9月 7日(日) 体育祭(雨天時順延)
- 9月 8日(月) 代休(体育祭予備日)
- 9月 9日(日) 安心して学校生活を送るための調査
- 9月10日(水) 全校朝会
- 9月12日(金) 就職試験受験者激励会
- 9月16日(火) 就職試験スタート
- 9月22日(月) 2学期中間考査時間割発表

- 9月24日(水) 人生の達人セミナー
- 9月28日(日) 全商情報処理検定
- 9月30日(火) 中間考査～10月3日(金)

正門横掲示板



吉田敬三先生のメッセージ

球技大会(7/17)

クラスの団結、強まる!

一学期期末試験が終わり、夏休み前の楽しみが校内球技大会です。7月17日(木)は朝から雨が降り、実施が心配されました。しかし、早朝から野球部員をはじめとして、たくさんの生徒が協力して水取り作業に取り組んでくれました。お陰で、計画通りに実施することができました。

各種目会場では、クラスの声援を受けながら、各選手の真剣なプレーにそれぞれ盛り上がりました。クラスの団結も強まり、楽しい思い出をつくる事が出来ました。



結果は以下の通りです。

男子の部	優勝	準優勝
ソフトボール	2年2組	2年3組
バレーボール	2年3組	2年2組
ソフトテニス	3年3組	3年1組
卓球	2年3組	3年3組
女子の部	優勝	準優勝
バレーボール	2年3組	2年2組
ソフトテニス	1年4組	1年4組
卓球	2年3組	1年5組

(生徒会指導部主任 田原 孝一)

平和学習(8/9)

8月9日(土)に平和学習を行いました。

まず、各クラスで分担して折鶴作成に取りかかり、合計千羽の鶴を折りました。鶴には、一人ひとりが平和への祈りを込めて、メッセージを書き込みました。

次に全校集会では、「語り継ぐ」というDVDを約40分視聴しました。これは、広島市の四つの高校が、それぞれ被爆者から話を聞いて、そのメッセージをまとめたものです。同じ高校生という事もあり、生徒は熱心に見入っていました。

感想の一部を抜粋します。

「今日見たDVDに登場した方は、みんな次の世代へ原爆の恐ろしさを伝えていかないといけないという強い思いで、話をされていました。私たちもそれを受け止め、絶対に途切れさせてはいけないと思います」「今まで本当に戦争の怖さを考えていなかったと思います。自分が体験したわけじゃないと、平和学習を軽く考えていました。そして、平和は尊いのに、今でも戦争があり、罪も無い人が殺されたり、親を亡くしてひとりぼっちになる子供がいたりして、世界はいつ平和になるのかとも思いました」

黙祷後、生徒副会長の木本君が「波高平和宣言」を読み上げ、平和への誓いを新たにしました。これから今日の思いを永続させていくことが大切です。

(教務主任 安達 健)



野球全校応援(7/13、26)

堂々のベスト8

第96回全国高等学校野球選手権長崎大会で、本校野球部は堂々のベスト8に輝きました。

波佐見高校では、初戦の南山高校戦(ビッグN)と準々決勝の創成館高校戦(佐世保野球場)の2試合を全校で応援しました。特に、第1シードの創成館高校戦は、延長15回2対2の引き分け再試合となりましたが、全校生徒の熱い応援を受けながら、波佐見高校本来の積極的な攻撃と堅実な守りを見せてくれました。

全校応援を通して、私たちの母校愛が深まりました。さらに、他の部活動部員の刺激にもなり、やる気が高まったことと思います。また、今秋以降の野球部の活躍にも大きな期待が広がりました。来年は甲子園球場での全校応援を実現しましょう。

(生徒会指導部主任 田原 孝一)



オープンスクール(8/8)

8月8日(金)、体験授業・体験部活動を中心とした第2回のオープンスクールを開催しました。地元の波佐見中学校を始めとして、川棚中、彼杵中、佐世保市内の中学校、遠くは対馬や島原から、合計24の中学校、総勢150名近くの中学生が参加しました。体験授業では、体育のサッカー、家庭科のお菓子作り、理科の太陽観察、音楽の楽器体験等、各教科が趣向を凝らした授業を展開しました。中学生たちも非常に熱心に参加し、楽しげな笑い声が校舎内外に響き渡りました。感想のアンケートには、4人に3人が「とても面白かった」「授業がよくわかった」などと答えてくれました。そして、ほぼ全員が「今後の進学する上で非常に参考になった」と回答があり、中学生の進路の一助になったようです。

午後からは、野球部や吹奏楽部などで体験入部があり、高校のひと味違う部活動を体験しました。今回参加した中学生たちが、来年波高に入学してくれたら、本当に嬉しい限りです。



(教務主任 安達 健)

長崎大学オープンキャンパス

7月19日、長崎大学のオープンキャンパスに、究理倶楽部と希望者の計19名が参加しました。

メイン会場である文教キャンパスにおいて、本校生は環境科学部の全体説明会とキャンパスツアーに参加しました。大型バスが何台も並んで、参加者の多さに生徒はびっくりしていました。

参加した生徒は、他校生と一緒に多くの刺激を受け、大学進学への思いを新たにしていました。

(進路指導主事 宮崎 恵)



ハウステンボスインターンシップ

過去10回のハウステンボス長期・実践的インターンシップで、延べ172名の生徒が研修をしてきました。この夏には26名の生徒が研修に参加しました。園内は家族連れが多く、元気いっぱいの子供達に振り回され、また想像以上の暑さに苦しめられながらも、「明るく元気に」をモットーに、一生懸命に声を出し、笑顔で頑張っていました。

(進路指導主事 宮崎 恵)



県吹奏楽コンクール

●7月29日(火)アルカスSASEBOにて第59回長崎県吹奏楽コンクールに出場しました。12分間の演奏を成功させるため、多くの時間を費やし練習に取り組みました。本番では「練習のようにのびのびと演奏しよう!」を合言葉にステージへ向かい、3年生を中心に気合を入れながらメリラックスした雰囲気での演奏を開始することができました。結果は私たちが目標としていた賞ではありませんでしたが、楽しくのびのびと演奏できたことで部員たちは「満足感・達成感」を味わって良い表情をしていました。コンクールでの演奏を成功させるため、努力を重ね諦めずに頑張ってきたことは、高校時代の「よき思い出」としていつまでも心に刻まれることと思います。(吹奏楽部顧問 大小瀬泉子)

●吹奏楽コンクールへ向けて合宿やホール練習など、大小瀬先生や竹下先生のご指導の下、多くの練習を重ねてきました。本番では部員一同、これまでの練習の成果を十分に発揮し1番良い演奏ができました。結果は銅賞で私たちが望んだ賞ではありませんでしたが、これまでの努力は、私たちが大いに成長させてくれたと思います。私たちが支えてくださった皆さんに感謝しています。応援ありがとうございました。(部長 谷山未紗)



ビブリオバトル講習会

8月5日(火)、図書文芸同好会の生徒が、講師の赤峰稔朗先生から、ビブリオバトルの本格的な運営方法について講習を受けました。ビブリオバトルとは…

- ①各自が自分の好きな本を皆に発表する(5分間)。
- ②紹介の後、聴衆は発表者に質問を行う。
- ③全員の発表が終わったら、「どの本が一番、読みたくなったか」を基準に投票を行う、というものです。

赤峰先生は、「発表時間は必ず5分間。時間を厳密に守ることによって、場に緊張感が生まれる」と話されました。

いよいよ部員によるビブリオバトルの開始。部員の発表はなかなかうまくいかず、途中で絶句してしまったりする人もいましたが、赤峰先生の適切な指導を受けて、今までにない充実したビブリオバトルを行うことができました。

赤峰先生は最後の講評で、「ビブリオバトルは一番になることが目標なのではなく、本の紹介を通して皆が仲良くなること」とおっしゃいました。

この貴重な経験をとおして、ビブリオバトルをさらに充実させていきたいと強く思いました。

(図書文芸同好会顧問 蔵迫 明)

